
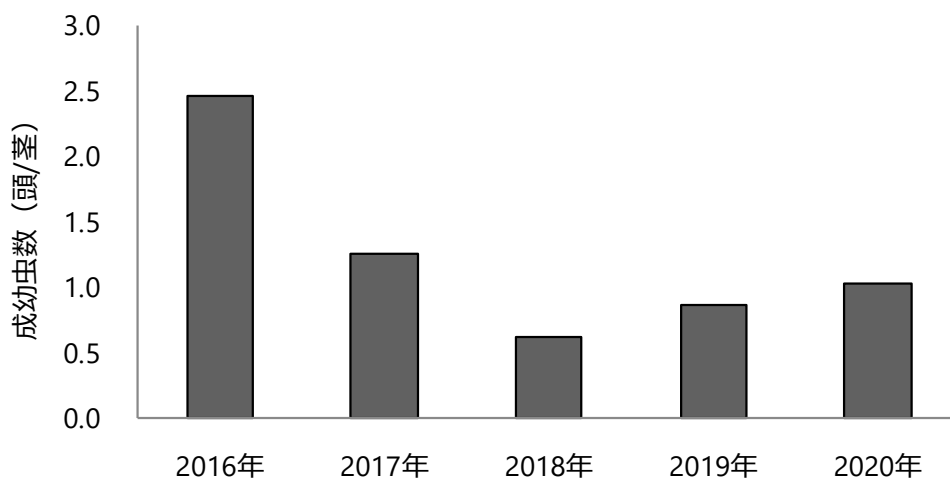


|       |                       |    |   |
|-------|-----------------------|----|---|
| 作物    | さとうきび                 | 地域 | 八重山群島   |
| 病害虫名  | ① カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー) |    |  |
| 予報    | 4 月の発生量 (平年比)         | —  |   |
|       | 3 月からの増減傾向            | —  |   |
| 予報の根拠 | 3 月の発生量 (平年比)         | 並  |   |
|       | その他<br>(気象要因など)       |    |   |


調査結果



カンシャコバネナガカメムシの3月の発生推移

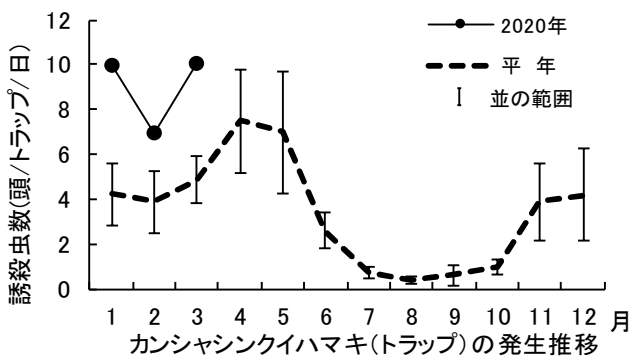
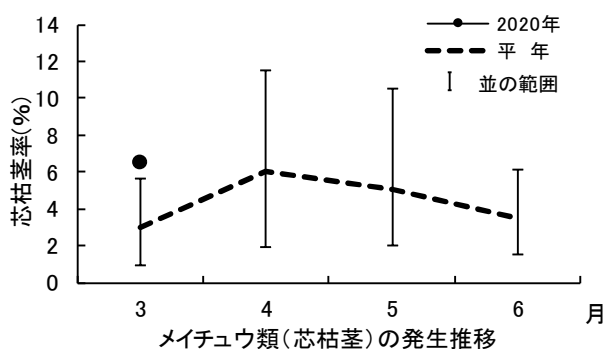
防除のポイント

- ・ 概ね4～6月に第一世代、7～8月に第二世代、9～10月に第三世代が発生するため、防除適期である4～5月上旬に莖当たり虫数が20頭を越えているほ場では、薬剤による防除を行う。
- ・ 前年の夏植や初回の株出しが被害を受けやすいため、葉鞘の隙間などをよく観察する。
- ・ 収穫後は直ちに畝間耕起し、発生源となる放置株を抜き取り処分する。

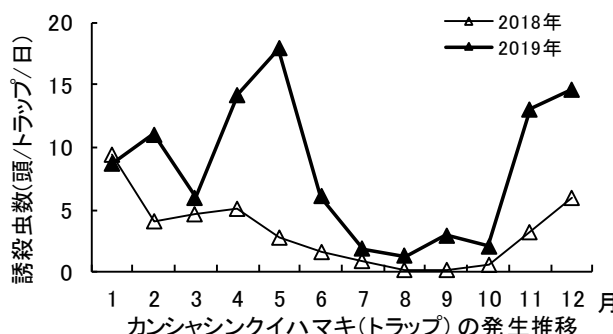
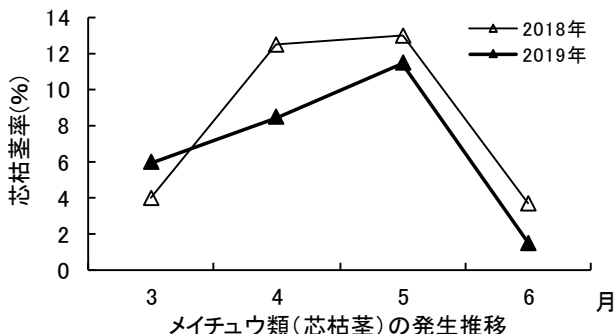
|       |                       |                    |   |
|-------|-----------------------|--------------------|---|
| 作物    | さとうきび                 | 地域                 | 八重山群島   |
| 病害虫名  | ② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ) |                    |  |
| 予報    | 4 月の発生量 (平年比)         | やや多                |   |
|       | 3 月からの増減傾向            | ↑                  |   |
| 予報の根拠 | 3 月の発生量 (平年比)         | やや多                |   |
|       | その他<br>(気象要因など)       | 芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↑) |   |

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：93.8% (平年：81.0%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、86% (30/35頭) がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 病害虫防除員報告 (メイチュウ類)：多発生 (波照間島)

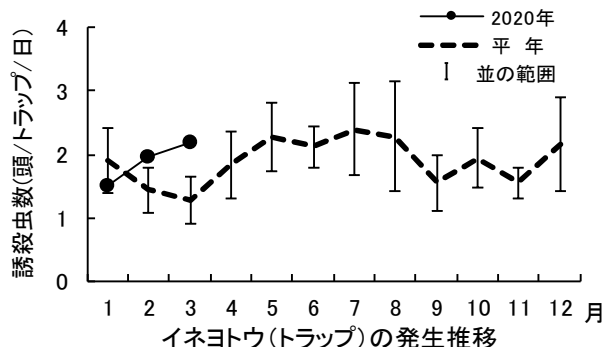
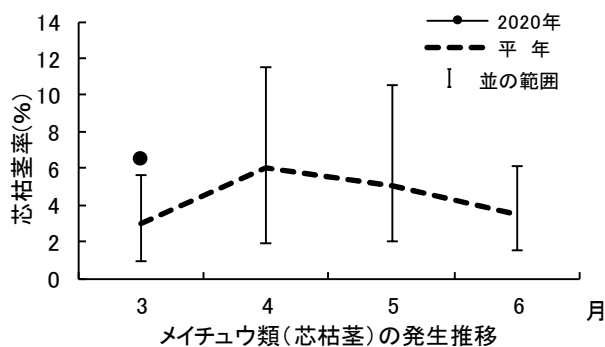
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

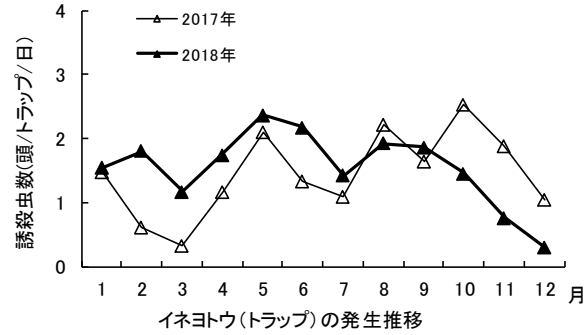
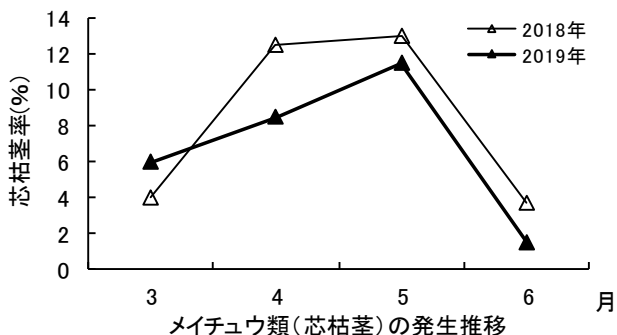
|       |                 |                    |   |
|-------|-----------------|--------------------|---|
| 作物    | さとうきび           | 地域                 | 八重山群島   |
| 病害虫名  | ③ メイチュウ類(イネヨトウ) |                    |  |
| 予報    | 4 月の発生量 (平年比)   | やや多                |   |
|       | 3 月からの増減傾向      | ↗                  |   |
| 予報の根拠 | 3 月の発生量 (平年比)   | やや多                |   |
|       | その他<br>(気象要因など) | 芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗) |   |

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



- ・ 芯枯れ発生ほ場率 : 93.8% (平年 : 81.0%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、14% (5/35頭) がイネヨトウであった。
- ・ 病害虫防除員報告 (メイチュウ類) : 多発生 (波照間島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。